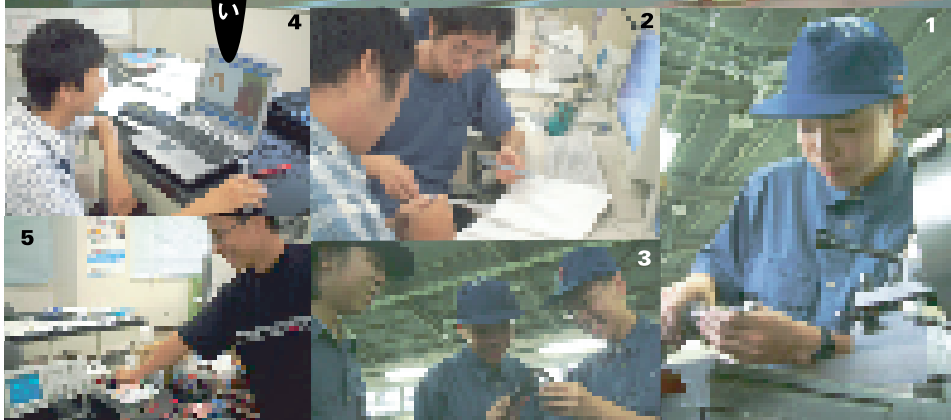




たった1校しかない



阿南工業高等専門学校 ロボット部

モットーは、「やってみる→くじける→悔しがる→向上心→努力」。モノ作りはすべてこの繰り返しだと、衝撃のアイデアを模索し、未知のカノウセを信じて1体のロボットを作りあげる。機械、電気、制御情報を専攻する部員たち、それぞれの能力を出し合って…。

高専ロボコンって?

今年で16年目を迎える「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」。毎年出題される競技テーマに従ってロボットを製作し、その成果を競う。11月2日に四国大会地方予選が行なわれ、その中から2チームが全国大会に出場できるのだ。発想力が勝負を決めると言われるロボコン。阿南高専では全校生徒からアイデアを募集し、集まった715のアイデアを元に、現在3体のロボットを作っている。3体を勝負させ、強いロボット2体を出場させる作戦だ。

1.製作費は10万円、重量は25kgという制約がある。アルミを削って、回転軸や継ぎ手など細かな部品をひとつひとつ作る。**2.**手前から、機械科4年の石見くんと郡くん(部長)。設計中は、夢にまで図面が出てくるのだとか。**3.**右から機械科の戒野くん(2年)、宮本くん(1年)、柴田くん(2年)。「映画に出てくるようなロボットやマシンが好き」「将来は、役に立つものを作りたい」と話す。**4.**3次元CADを使わせたら校内ナンバーワンと言われる、機械科2年の新居くん。**5.**「難しいからおもしろい」と言う、ロボットの頭脳作りを一手に引き受ける電気科4年の清水くん。